

第19回 KOSMOS フォーラム

コーディネーター



原田 憲一 (はらだ けんいち)

京都造形芸術大学芸術教養教育センター教授
専攻分野「地質学、資源人類学」

昭和21年生まれ
昭和45年京都大学理学部地質学鉱物学教室卒
昭和52年京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学専攻博士課程修了(理学博士)
昭和45年米国ウッズホール海洋学研究所に留学。昭和53年アレキサンダー・フォン・フンボルト財団奨学研究員(キール大学)、昭和54年米国ワシントン州立大学地質学教室客員講師を経て、昭和55年山形大学理学部地球科学科助教授。平成7年同地球環境学科教授。平成12年より京都造形芸術大学教授。著書に「地球について」。共著に「朝倉講座 文明と環境」「環境経営論Ⅱ」「地球環境と公共性」「地域学への招待」「都市空間を創造する」「新しい地学のすすめ」「地球時代の文明学」など。

パネリスト



内山 節 (うちやま たかし)

哲学者
専攻分野「存在論・労働存在論」

昭和25年生まれ
大学に関心をもたず哲学の道へ。"釣り"を通じて山村社会の変容を描いた「山里の釣りから」を著す。山村社会の崩壊を食い止めるために、森林や渓谷の開発中止・天然魚の保護を主張。現在、存在論を中心にした著述に専念。著書に「労働過程論ノート」「存在からの哲学」「自然と労働」「自然・労働・協同社会の論理」「森林社会学」宣言「山里紀行」「自然と人間の哲学」「時間についての十二章」「森にかよう道」「山里の釣りから」「貨幣の思想史」「里の在処」「森の列島に暮らす」など。

パネリスト



小清水 漸 (こしみず すすむ)

彫刻家、京都市立芸術大学美術学部彫刻科教授

昭和19年生まれ
昭和45年多摩美術大学彫刻科除籍退学
大学在学中から現代日本美術展、ジャパン・アート・フェスティバルやパリ青年美術展、ベネチア・ビエンナーレ、サンパウロビエンナーレなどに出品。主に木を素材にした抽象彫刻で"世界に通用する日本の土着性"を表現する。作品に(作業台)シリーズ、「鳴る形」「梳く形」「浮くかたち」「鷹の井戸」「碧い舟」などがある。一方、京都市立芸術大学助教授を経て、教授。平成15年同大情報管理主事。



佐藤 洋一郎 (さとう よういちろう)

総合地球環境学研究所副所長・教授
専攻分野「育種学、植物遺伝学」

昭和27年生まれ
昭和52年京都大学農学部農学科卒
昭和54年京都大学大学院農学研究科農学専攻修士課程修了
国立遺伝学研究所助手、静岡大学農学部助教授を経て、平成15年総合地球環境学研究所教授。遺跡で出土した米粒のDNAを解読しイネの伝播ルートを研究する"DNA考古学"のバイオニアで、平成4年雲南・アッサム説を否定し長江と南方地域から2種のイネが日本列島に伝わったとする伝播二元論を発表。のちメンデルの法則に合わない遺伝現象があらわれる謎の稲"イセヒカリ"の研究を行う。著書に「DNA考古学のすすめ」「里と森の危機(クライシス)」「イネの歴史」「塩の文明誌」(共著)など。



武内 和彦 (たけうち かずひこ)

東京大学大学院農学生命科学研究科教授・サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)副機構長、国際連合大学副学長
専攻分野「緑地環境学、ランドスケープエコロジー、サステナビリティ学」

昭和26年和歌山市生まれ
昭和49年東京大学理学部地理学科卒業
昭和51年東京大学大学院農学系研究科修士課程修了
昭和52年東京大学大学院農学系研究科博士課程中退
昭和52年東京都立大学理学部地理学科助手、東京大学農学部助教授、アジア生物資源環境研究センター教授を経て、同大学院農学生命科学研究科教授。平成17年よりサステナビリティ学連携研究機構(IR3S)副機構長を併任し、平成20年からは国際連合大学副学長も務める。著書に「環境創造の思想」「環境時代の構想」「ランドスケープエコロジー」「地球持続学のすすめ」(以上単著)、「里山の環境学」「環境学序説」「SATOYAMA」「生態系へのまなざし」(英文)(以上共著)など。